

中国とアフリカの貿易・投資

宋志勇*

第1節 対アフリカ貿易・投資の進展過程

中国とアフリカの貿易は1950年に始まったが、当時の貿易額はわずかに1,200万ドルであった。中国政府は「平等互惠のもと、実効をむねとし、多様な形式で、ともに発展する」という原則に従い、アフリカ各国との経済貿易関係を発展させた。しかし、当時の歴史的条件や他のさまざまな要因により、中国とアフリカの貿易（以下中ア貿易と略す）の伸びは緩やかで、1979年時点でも双方の貿易額はわずかに8億2,000万ドルであった。中国が改革開放政策を実施してから、中ア貿易は加速的に発展し、次第に双方の協力規模や協力分野が拡大し、ハイレベルの協力が行われるようになった。

1. 中ア経済貿易協力の歩み

半世紀を経て、2006年に中国とアフリカの貿易額は500億ドルを超え、貿易品目は50余りに増えた。輸出入商品の構造にしろ、貿易パターンにしろ、中ア経済貿易関係には大きな変化が生じている。中ア経済貿易協力の進展過程は、おおむね次の四段階に分けることができる。

第一段階は、中ア経済貿易協力の確立と初歩的な発展の段階（1949－1978年）である。中華人民共和国成立時、大多数のアフリカ諸国はまだ民族の独立を成し遂げておらず、中国と貿易取引があったのはエジプト、モロッコなど少数の国々だけであった。1950年代から70年代に、多くのアフリカ諸国が相次いで独立するとともに、相前後して中国と外交関係を樹立し、中ア経済貿易協力に良好な政治的基礎を築いた。1949年9月に採択された『共同綱領』に定められた平等互惠の原則は、中国が対外経済関係を発展させるための指針であり、中国がアフリカ諸国との経済関係を発展させるための政策的根拠でもある。1963年、中国政府はさらに『中国のアラブ諸国およびアフリカ諸国に対する五つの原則』を打ち出した。

当時の特殊な歴史的条件のために、中ア経済貿易の多くが「非経済的行為」であり、経済的利益は政治的、外交的ニーズに従属し、それに役立てるものであった。経済取引は政府間関係に限られ、中国の一方的な援助が主で、二国間貿易は補助的なものにすぎなかった。また協力分野は狭く、協力の形式も単一的であった。にもかかわらず、中ア貿易は一定の進展をみせ、貿易パターンは民間貿易から一定規模の政府間貿易へ、商品構造は一次産品中心から次第に工業製品中心の段階へと発展した。貿易相手国は最初の数カ国のみの

*商務部国際貿易経済合作研究院、アジア・アフリカ研究部副主任。

段階から数十カ国へと増え、貿易の支払い方式も覚書方式、バーター貿易から次第に現金貿易へと変わった。

第二段階は、調整、充実、発展の段階（1979－1989 年）である。改革開放政策の実施にともない、中国政府は対外貿易体制に初歩的な改革を行い、アフリカに対する貿易政策に関しても調整を行った。80 年代初め、中国政府はアフリカ諸国との経済技術協力について四つの原則を打ち出した。すなわち、「平等互惠のもと、実効をむねとし、多様な形式で、ともに発展する」である。これにより中ア経済貿易協力は調整、充実、発展の段階に入った。

第三段階は、安定的な発展の段階（1990－1999 年）である。1990 年代に入ってから、中国政府は引き続き対外貿易体制の改革を深め、市場多様化戦略、品質で勝つ戦略、「大経貿」戦略および科学技術による貿易振興戦略を定めた。また、中ア経済貿易協力を促進するために、次のように具体的な政策を相前後して打ち出した。すなわち、双方の企業が両国の経済貿易協力により大きな役割を果たすよう促す。政府貸付や銀行が提供するソフトローンなどの方法で二国間の経済貿易協力を推進する。請負、労働力などさまざまな方法で協力分野を広げる。アフリカ諸国が経済を発展させるための努力をサポートする。貿易ルートを広げ、アフリカからの輸出を増やすなどである。こうした政策のもと、中ア経済貿易協力は着実に発展しはじめた。

第四段階は急速な発展の段階（2000 年－現在）である。2000 年 10 月、中国政府は「中国アフリカ協力フォーラム」（FOCAC）を立ち上げ、中国とアフリカ諸国の間に多国間協議メカニズムをつくり、相互協力の新たな時代をスタートさせた。フォーラムが採択した『中国アフリカ協力フォーラム北京宣言』と『中国アジア経済社会発展協力綱領』は、中国とアフリカが 21 世紀に平等互惠の協力を展開するための行動指針となった。双方の協力を推進するために、中国政府は相次いで、次のような一連の措置を講じた。

アフリカの重債務貧困国および後発開発国の債務 100 億元を減免する。中国企業のアフリカでの合弁・提携を奨励し、支援するための特別資金を設立する。「アフリカ人材資源開発基金」を設立し、アフリカ諸国による各種の専門的な人材の育成を支援する。2005 年から、アフリカ 28 ヶ国が中国に輸出する一部の商品に関税免除の待遇を与える。「アフリカ人材資源開発基金」を増額し、アフリカのために 1 万人の各種の人材を育成する。アフリカ 12 ヶ国に「中国公民出国旅行目的地」の地位を与える、などである。2006 年 1 月、中国政府は『アフリカ政策文書』（African Policy Paper）を発表し、新たな時代に中国とアフリカの友好協力を強化するための方向と重点を定めた。4 月、胡錦濤主席は「政治的には相互信頼を深め、経済的には互惠関係を広げ、文化的には互いに参考としあい、安全保障のうえでは相互協力を強め、国際的には互いに緊密に協力する」という、中国とアフリカの新しい戦略的パートナーシップの発展を促す五つの提案を行った。11 月の中国アフリカ協力フォーラム北京サミットの期間中、胡錦濤主席が宣言したアフリカとの実務的な協力を強化するための八つの措置および温家宝総理が行った五つの提案には、中ア発展基金を

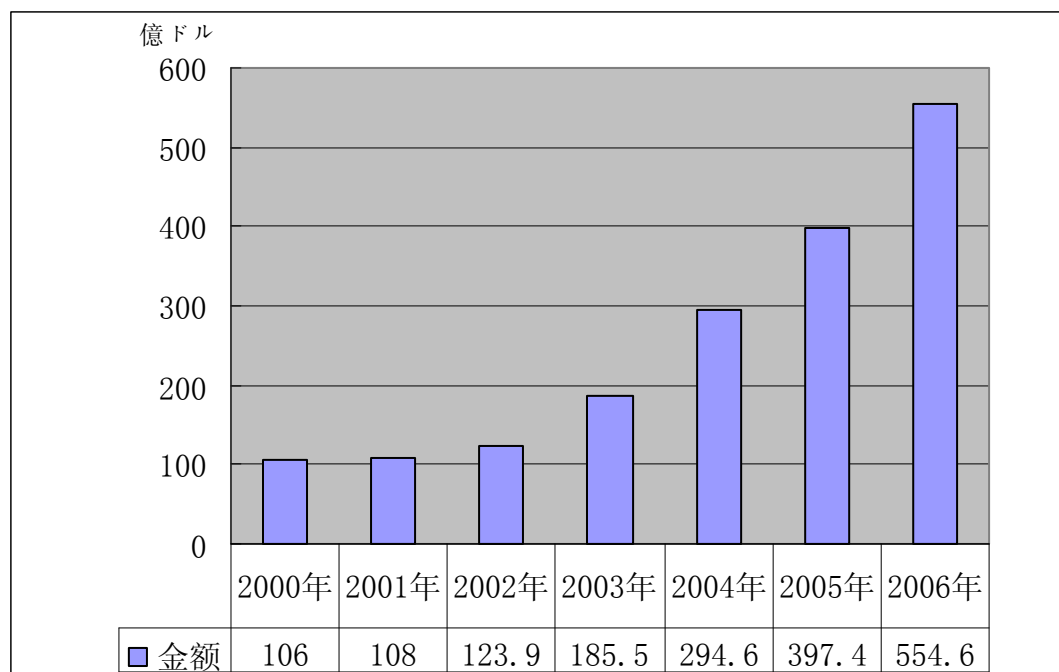
設立すること、条件の整ったアフリカの国が経済貿易協力区を設立することなどが盛り込まれた。これら中国が中ア経済貿易協力の推進のために講じた措置および急速に深まる協力関係は、中国とアフリカの経済貿易協力が新たな段階に入ったことを示している。

2. 対アフリカ貿易・投資の現状

(1) 中ア貿易の急速な伸びと貿易構造の最適化

中国とアフリカが経済貿易協力を行うようになって 50 年余りの間に、中ア貿易は絶えず発展してきた。ただし 1994 年まで貿易額は 26 億 4,000 万ドルにすぎなかった。2000 年に中ア貿易は、はじめて 100 億ドルの大台を突破し、1994 年の 4 倍になった。その後、中ア貿易は 6 年連続で過去最高を記録し、2006 年に中国の対アフリカ貿易総額は 500 億ドルを超え、554 億 6,000 万ドルとなり、前年比で 39.6%増加した。うちアフリカへの輸出は 266 億 9,000 万ドルで、前年同期比 42.9%の伸び、アフリカからの輸入は 287 億 7,000 万ドルで前年同期比 36.6%の伸びであった（図 1。詳細は表 1 参照）。2000－2006 年の間に、中ア貿易は年 31.8%増加し、同時期における中国の対外貿易の年増加率 24.4%を上回った。中国政府の目標によれば、2010 年に中国とアフリカの貿易額は 1,000 億ドルに達する見込みである。

図 1 中ア貿易額の推移



出所：中国税関統計の関連データから計算。

表1 1998年－2006年の中ア貿易

単位：億ドル、%

	輸出入		輸出		輸入		差額	
	金額	増減	金額	増減	金額	増減	金額	増減
2000	106	63.3	50.4	22.5	55.6	133.6	-5.2	-130.1
2001	108	1.9	60.1	19.1	47.9	-13.7	12.2	344.6
2002	123.9	14.7	69.6	15.9	54.3	13.2	15.3	25.4
2003	185.5	49.7	101.8	46.3	83.6	54.1	18.2	19.2
2004	294.6	58.9	138.2	35.7	156.5	87.1	-18.3	-200.4
2005	397.4	34.9	186.8	35.3	210.6	34.6	-23.8	-30.1
2006	554.6	39.6	266.9	42.9	287.7	36.9	-20.8	-12.6

出所：中国税関統計の関連データから計算。

また、双方の貿易構造が次第に最適化した。中国経済の発展にともない、アフリカに対する輸出製品に一次産品が占める割合が減り、工業製品の割合が次第に増え、さらに軽工業製品中心から機械・電機設備中心の方向へと発展した。2006年には中国からアフリカへの輸出製品のうち、機械・電機設備が120億ドルで、輸出の45%を占め、増加率（46.9%）は2005年（2.7%）をはるかに上回った（詳細は表2参照）。

表2 対アフリカ輸出商品の構造

単位：億ドル、%

総額 商品	2005年	2006年		
	金額	金額	同期比増減	シェア
	186.8	266.9	39.6	100
機械・電機製品	81.7	120	46.9	45.0
紡績品	29.9	40	33.8	15.0
衣料	18.7	21	12.3	7.9
靴類	7.5	9	20	3.4
合計	137.8	190	37.9	71.2

出所：商務年鑑と中国税関統計の関連データから計算。

輸入品の構造からみると、一次産品が依然として主要な位置を占め、増加率も高い。2006年の輸入製品のなかでは原油が依然として最も多く、金額は 210 億ドルに達し、同期比で 44.5%増え、アフリカからの輸入総額の 73.0%を占めている。その他の製品には原木、鉄鋼製品などがあり、原油と合わせて 229 億ドル、アフリカからの輸入総額の 79.6%を占める（表 3）。

表 3 アフリカからの輸入商品構造

単位：億ドル、%

総額 商品	2005 年	2006 年		
	金額	金額	同期比増減	シェア
	210.6	287.7	42.9	100
原油	145.3	210	44.5	73.0
原木	4.2	7	66.7	2.4
鉄鋼製品	4.2	8	90.5	2.8
銅製品	4.2	4	20	1.4
合計	157.9	229	45.0	79.6

出所：商務年鑑の関連データから計算。

アフリカ諸国からの輸入を増やすために、中国はアフリカ諸国の一部商品に免税政策を実施したうえで、2006 年末にはさらに中国と外交関係のあるアフリカの後発開発国が中国に輸出する商品でゼロ関税待遇の対象となる商品を 190 品目から 440 品目あまりに拡大し、対象商品の対中輸出額を増加させることを宣言した。アフリカからの輸入の急速な伸びにともない、中国の対アフリカ貿易は 2004 年に出超から入超に転じ、この年の対アフリカ貿易の入超は 18 億 3,000 万ドルに達し、2006 年にはさらに 20 億 8,000 万ドルに増えた。これによりアフリカ諸国は大量の外貨収入を獲得した。

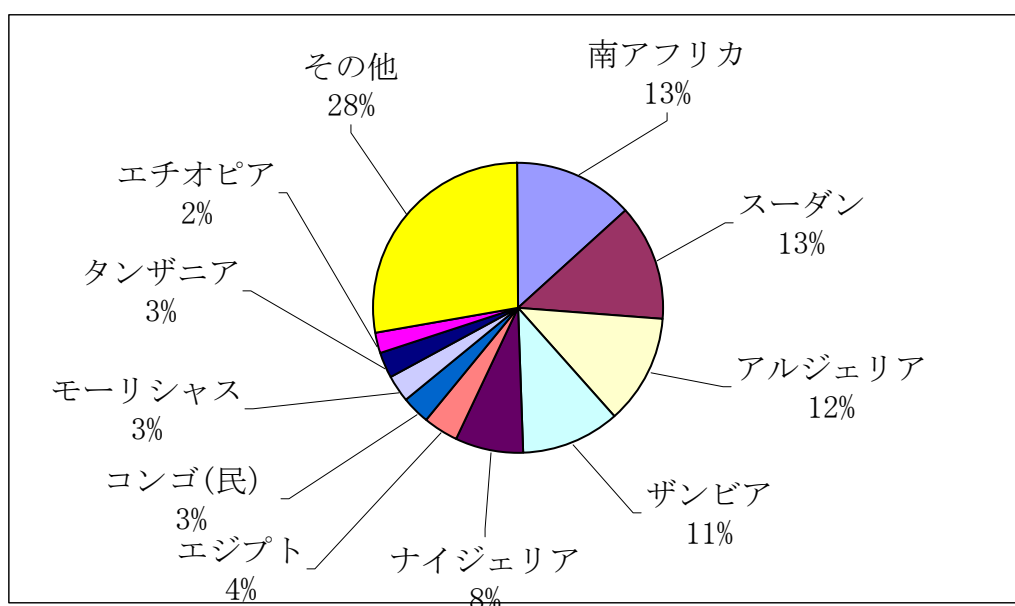
中国とアフリカ大陸の間には密接な貿易関係をもつ国が次第に増えた。1993 年、中国との貿易額が 1 億ドルを超えているアフリカの国はわずかに 7 カ国、合計金額は 16 億ドルで、この年の中ア貿易額の 63.2%を占めていたが、2006 年には中国との二国間貿易額が 20 億ドルを超えるアフリカの国が 9 カ国あり、合計額は中ア貿易総額の 74.7%を占める。

(2)年々増加する中国のアフリカへの投資

アフリカ大陸に眠る大きなビジネスチャンスが中国企業を引きつけ、次々に投資に向かわせている。中国政府も一貫して、実力と信用を兼ね備え比較優位を発揮できる企業がア

フリカ諸国に投資することを奨励している。中国企業のアフリカへの投資はまだ初期段階にあるが、発展の見通しは良好である。2006 年末までに中国のアフリカに対する直接投資は累計 22 億 2,300 万ドルに達し、農業開発、製造加工、交通、通信、水利、電力、石油採掘など多くの分野に及んでおり、アフリカ 49 カ国に分布している。うち、累計投資額が 5,000 万ドルを超えるのは南アフリカ、スーダン、アルジェリア、ザンビア、ナイジェリア、エジプト、コンゴ民主共和国、モーリシャス、タンザニア、エチオピアなど 12 カ国で、合計金額は 16 億 300 万ドル、中国の対アフリカ直接投資総額の 72.13%を占める。

図2 アフリカの主要国に対する累計直接投資の割合



出所：中国商務年鑑のデータから計算

現在、中国はすでにアフリカ 41 ヶ国と「二国間貿易協定」を、29 ヶ国と「投資の奨励と保障のための二国間協定」、9 ヶ国と「重課税の回避と脱税防止のための協定」を締結しており、ほかのアフリカ諸国と関連協定を結ぶための協議も順調に進んでいる。中国のアフリカに対する投資は現地の経済と社会の発展を促し、雇用機会を増やし、人々の生活水準を向上させるとともに、先進的で実用的な技術とマネジメントの経験をもたらし、アフリカ諸国の自主的な建設の能力を強化しており、現地で広く歓迎されている。

2006 年 11 月、中国政府は今後 3 年間でアフリカに 3 から 5 ヶ所の域外経済貿易協力区を設立すると宣言したが、これは中国のアフリカへの直接投資にプラスの役割を果たすことが見込まれ、将来中国のアフリカへの投資はますます増えるであろう。

第2節 対アフリカ貿易・投資が直面する問題

中国とアフリカの経済貿易協力は多くの成果を上げているが、実際の状況を見ると、双方の貿易投資分野には依然としていくつかの問題が存在し、なかには拡大しつつある中国とアフリカの貿易・投資にマイナスの影響を与えている問題もある。

1. 貿易が直面する問題

(1)貿易構造が合理的とはいえない

双方の貿易構造から、中国がアフリカに輸出しているのは主に製品であり、アフリカから輸入しているのは大部分が一次産品であることがわかる。しかし、こうした貿易構造には持続可能性がない。現在一次産品の価格が上昇し、アフリカ諸国の経済・貿易にとって有利な状況となっているが、一次産品は国際市場の影響を受けやすい。数年前に一次産品の価格が低迷した際、一次産品輸出に依存するアフリカ諸国経済が不景気に陥ったことから明らかである。したがって、ひとたび一次産品の価格が大幅に下落すれば、一次産品の輸出に依存する大部分のアフリカ諸国は極めて大きな損失を被り、これらの国々の経済発展に大きな打撃がもたらされることは必至である。同様に、中国はアフリカへの機械・電機設備製品や軽工業製品の輸出割合が高いが、技術レベルはまだ低く、ひとたび輸入国で同類製品の生産能力が上がれば、輸出に影響することとなる。

(2)製品の品質に問題があり、アフターサービスが悪い

中国企業の多くがアフリカに対する正しい理解を欠いており、アフリカ諸国はどこも経済発展レベルや消費レベルが低く、「三流市場」であると考えている。このためアフリカに販売する製品の品質を重視していない。ある調査によれば、アフリカと取引する機械・電機設備貿易企業は中小企業と個人経営者が中心で、大企業は少なく、一部のアフリカ諸国のユーザーは常に中国の機械・電機製品の品質に不満を抱き、クレームをつけている。とくに数年前に少数の企業と個人経営者が偽物や粗悪品をアフリカに販売したことは、非常に悪い影響を招いた。

(3)低価格での販売を競い、輸出秩序の乱れを招いている

アフリカ市場の潜在力は大きく、中国商品はアフリカ諸国の消費レベルに合っている。しかし、中国企業は市場獲得のために低価格での販売を競っており、多くの高品質の製品が安売り品となり、現地の経営秩序の混乱を招いているだけでなく、中国商品の信用に深刻な影響を与え、中国の商品のアフリカ市場開拓が難しくなっている。

(4)激しい市場競争に直面している

アフリカ市場の潜在力が世界に知られるにつれ、先進国がアフリカに対する貿易戦略を

見直し、援助を増やすとともに、貿易と投資とを結びつけ、自国企業のアフリカ市場開拓を後押しするようになった。アフリカ市場の 65%は先進国に占められている。なかでも一部の西側先進国はかつての宗主国としての地位と資金力を利用し、アフリカ市場を占有しており、中国企業のアフリカ市場への進出は非常に難しくなっている。中国企業のアフリカへの輸出は、先進国の手から市場を奪い取ることにほかならない。ここ数年一部の発展途上国もアフリカ市場の開拓に力を入れており、アフリカ市場をめぐる競争が激しさを増している。

2. 対アフリカ投資が直面する問題

(1) アフリカ諸国の投資環境についての理解が不十分である

アフリカには数十の国が存在し、国情も千差万別で、市場機会や将来の見通しもそれぞれ異なる。中国企業はアフリカ諸国の政治経済環境や外資導入政策についての十分な認識を欠き、多くの企業が勘だけを頼りに、あるいは投資しようとする国の投資環境、市場販売見通しについて十分な調査研究を行うことなく、軽率に投資を行っている。こうした投資は計画性がないため、企業が操業を開始しても市場のニーズに応えることができず、最終的に投資の失敗を招くことになる。

(2) 中国企業のアフリカにおける投資は玉石混交である

中国企業のアフリカ市場への進出は調和を欠いている。なかには現地の市場を占有するため、「価格戦争」により、悪しき競争を繰り広げる企業もある。少数ではあるが、投資目的が不純な企業もある。設備をアフリカ諸国に運び、製品を生産・販売し、金儲けすることだけを考え、製品の品質や企業の信用をないがしろにし、中国企業のイメージを損ねている。このほか、一部の中国企業のアフリカ諸国における行為は、現地の労働法に違反している。

(3) ビジネス環境の改善を待たなければならない

アフリカ諸国のビジネス環境はまだ改善が必要である。イギリスの刊行物の報道によれば、現在世界にはビジネス活動に適さない国が 35 あるが、うち 27 はアフリカにある。ある国では会社を設立するためにかかる時間と費用が高く、ある国では税負担が非常に重く、規定どおりに税金を納めると、企業経営がまったく成り立たない。

また、歴史的な理由で、多くのアフリカ諸国のインフラは立ち遅れており、企業の正常なニーズをみたすことができない。たとえば、交通がスムーズでないために、企業の生産に必要な原材料や製品の輸送に支障をきたしたり、電力不足のため製品の生産が断続的になり、企業の生産活動が正常に行えなかったり、などである。

アフリカ諸国の中には雇用を拡大するために、中国人労働を制限している国もある。そのため中国側の中上級技術管理者や技術者のビザが下りず、中国企業が現地の専門家を雇

わざるを得ず、企業経営のコストが大幅に上昇する結果を招く場合もある。

第3節 対アフリカ貿易・投資の展望

将来を展望してみると、中国とアフリカには大きな発展の潜在力があり、双方の将来の経済貿易協力には多くの有利なファクターがある。もちろん、中国とアフリカの経済貿易協力は機会とともに多くの課題に直面している。

1. 中ア経済貿易協力の有利なファクター

(1) 良好な政治的基礎

中国とアフリカは距離的に遠く離れているが、中国人とアフリカの人々との友好交流の歴史は古く、互いの間にいかなる歴史的な紛争もない。中華人民共和国成立から数十年、中国とアフリカの人々とは運命を同じくし、困難をともにし、植民地主義、人種主義、覇権主義に反対し、国家の主権と尊厳を守り、発展途上国の権益を擁護し、世界の平和と発展を促進する共通の戦いのなかで、政治的には一貫して互いに同情しあい、支持しあってきた。これは中国とアフリカ諸国との経済貿易関係が安定を保ち、健全に発展するための重要な基礎である。

経済貿易分野の協力において、西側先進国とアフリカ諸国の経済貿易関係には常に政治的条件が付随しているが、中国とアフリカ諸国の経済貿易関係は平等で、いかなる条件もついていないところに築かれており、このことはアフリカ諸国にとって特別な魅力であることは間違いない。このため中国とアフリカ諸国は深い友情を結んでおり、「全天候」型の友人となっている。

2000年の「中ア協力フォーラム」(FOCAC)の創設と2006年11月の「中ア協力フォーラム北京サミット第三回大臣級会議」の北京での開催に際し、アフリカ48カ国の国家元首、政府首脳あるいは代表が出席したことは、中国とアフリカ諸国の良好な政治的関係を十分に示している。

(2) 双方に強い相互補完性がある

中国は世界最大の発展途上国であり、アフリカは世界の後発開発途上国が集中している大陸である。双方の経済発展における相互補完性はきわめて強い。中国からみれば、アフリカ諸国は中国経済が持続的に発展するために必要な資源と市場というメリットをもっている。中国は土地が広く、物資が豊富であるが、一人当たりの資源は非常に乏しく、資源不足はすでに中国経済の持続的な発展にとって深刻なボトルネックとなっている。一方、アフリカ大陸にはかねてから「世界資源の宝庫」の名がある。統計資料によれば、現在地球で最も重要な50種類の鉱物資源のうち、アフリカは17種類の埋蔵量が世界一である。アフリカにはさらに豊富な動植物資源があり、地理的な分布においても集中している。ま

た、アフリカは 53 の国と 8 億あまりの人口を擁する大市場であり、各国の経済改革過程が加速するとともに、経済が長期間成長を維持しており、大きな市場潜在力を見せつつある。

アフリカ諸国には、豊富な鉱物資源と農林資源があるが、長い間植民地支配を受けてきたため、大多数の国は経済発展のレベルが低く、地元の工業はきわめて脆弱であり、大部分の商品を輸入に頼っている。そこで、資源開発を通じた資本蓄積や、外資導入による経済発展を望んでいる。一方中国はアフリカ諸国の経済発展に適した商品、技術、マネジメントというメリットをもっており、中国がアフリカへの投資を増やすことがアフリカ諸国の発展を促し、資金不足問題を解決するうえで重要な役割を果たしている。

したがって、中ア経済貿易は中国の実用的な技術、マネジメントの経験や労働力資源のメリットとアフリカの自然資源のメリットとを十分に結びつけ、多様な形式で、多くの分野でともに協力と開発をはかり、アフリカ諸国の経済と対外貿易の発展を促すことが可能である。

(3) アフリカの投資環境は日増しに改善されている

アフリカ諸国は経済グローバル化のニーズに適応するため、経済改革を推進し、対外開放政策を実施し、市場経済を発展させ、市場メカニズムを確立、整備し、外資導入政策を定めている。アフリカ諸国のなかには経済開発区あるいは工業団地を設立し、一連の関連優遇政策を定めることにより、外国企業の投資を呼び込もうとしている国もある。中国企業はこれらの優遇政策を充分に利用し、現地の経済発展のニーズに基づき、積極的に投資を行っている。

(4) アフリカは中国の発展の経験を参考にすることができる

改革開放を実施してから 20 年余り、中国の経済は大いなる発展を遂げた。この改革開放の経験、特に農業と農村の発展、外資導入の経験、人的資源の開発などは、アフリカの多くの国にとってよい参考となる。中国の成功した経験を参考にすることにより、アフリカ諸国は回り道をせずすみ、特に中国が貧困から抜け出すことに成功した経験は、アフリカ諸国が貧困を抜け出すためにおおいに参考になる。

2. 中ア経済貿易協力が直面する課題

(1) 中ア経済貿易協力は先進国の挑戦に直面している

中ア協力が直面する最大の課題は、アフリカの資源と市場に対する大国の争奪戦が激しさを増していることである。それはアメリカがアフリカの石油など戦略的鉱物資源を大いに重視し、投資していることからわかる。また、ヨーロッパ諸国はかつての影響力、言語のメリットや資金、技術のメリットを活かし、アフリカとの経済関係を強化しようと努力している。いくつかの新興工業国もアフリカに非常に注目しており、アフリカとの貿易、投資を拡大することにより、アフリカ大陸への影響力を強めようとしている。このため、

今後、中国とアフリカ諸国の経済貿易協力は激化する国際競争にさらされよう。

それだけではない。先進国のなかには、中ア経済貿易協力の急速な発展が彼らのアフリカでの利益を脅かすと考えている国もある。一部西側の世論は中国のアフリカでのやり方を「新植民地主義」と称し、中国がアフリカ大陸において新植民地主義を実行しているとして侮蔑する。こうした世論は中国とアフリカ諸国の経済貿易に不利な影響を及ぼす。

(2) 対アフリカ貿易が直面する不均衡の問題

上に述べたとおり、中ア貿易構造には大きな不均衡が存在し、アフリカ諸国の経済発展を制約しているが、短期間にこの不均衡を改善することは難しい。このことが中ア貿易発展の不確実性を高めている。同時に、貿易対象にも大きな不均衡が存在する。中国の対アフリカ貿易は少数の国に集中しており、2006年、中国の対アフリカ貿易額上位5カ国の合計金額は313億6,000万ドルで、アフリカ大陸に対する輸出総額の半分以上を占める。このため、中国の対アフリカ輸出入商品が十分に多様化できない。

(3) 貧困が中ア経済貿易協力の発展を妨げている

長期にわたる植民地支配を受けてきたため、アフリカは依然として世界で最も貧しく、立ち遅れた地域であり、国連が発表した世界の後発開発途上国48カ国のうち、アフリカが33カ国を占めている。これらの国は貧しく、立ち遅れており、一人当たりの国民所得は低く、教育が遅れ、経済構造が単一で、工業の基礎は脆弱であり、商品が不足し、人口増加が速く、貧困の悪循環のなかにある。中ア経済貿易協力はアフリカの貧困のために大きな障害をかかえている。

(4) 中ア貿易摩擦がたびたび発生している

中国の繊維品、衣類、靴類、オートバイなどの商品が大量にアフリカに押し寄せ、一部のアフリカ諸国の関連産業に大きな打撃を与えている。また繊維・衣類など、一定の競争力をもつアフリカの製品も中国製品との激しい競争に直面し、アフリカの輸出能力を弱め、間接的にアフリカの関連産業に損害を与え、国際資本のアフリカへの直接投資に影響している。したがって一部のアフリカ諸国は中国製品に対し反ダンピングおよび保障措置を提起し、双方の間に貿易摩擦が生じている。概算統計によれば、中国がアフリカ諸国から反ダンピングおよび保障措置を提起された事件はあわせて48件である。特に指摘する必要があるのは、中国に対して反ダンピングおよび保障措置事件を提起した国はいずれも影響力のある地域の大国であり、これらの国は引き続き中国製品に対する反ダンピング調査を提起しており、これが中国製品の他国での貿易発展に影響することは避けられない。一部のアフリカ諸国はこれらの国のやり方をまね、中国製品を制限しており、貿易摩擦が発生する確率が中ア貿易の発展とともに増加している。

(5)文化の違いが中ア経済貿易に投げかける課題

アフリカ大陸は長い間西洋の植民地支配を受け、ヨーロッパ諸国の文化を受け入れたが、一方で地元の文化的伝統の影響も受けているため、アフリカ大陸は地域により、国によって文化に大きな違いがある。このためそれぞれ異なる思考様式や価値観が形成されており、貿易投資にも複雑さが伴う。多くの中国のビジネスマンにとって、アフリカはやはり見知らぬ神秘的な大陸であり、双方の協力は難しい。したがって中国企業がアフリカの国で貿易や投資を行うにあたっては、現地の文化にいかに溶け込むかが非常に大きな課題である。

(6)政局の不安定性と民族対立が中ア協力を課題をもたらしている

歴史的、現実的問題のために、アフリカ地域の政治の発展は不均衡で、多くの国で部族、宗教対立が存在し、地域間の衝突、反政府武装勢力などが常に存在し、犯罪率が高く、治安状況が悪い。一部のアフリカ諸国ではテロ活動も発生している。ここ数年、中国人従業員が現地の反政府武装勢力に拉致され、身代金を要求され脅迫される事件が度々起きているが、中国の石油探査会社を襲撃するという悪質な事件まで発生し、中国人従業員の生命の安全が著しく脅かされている。今年4月26日、河南油田地質調査処のエチオピアの工事現場が200名の武装勢力に襲撃された。この際に9人が死亡し、1人が軽傷を負い、7人が拉致された。この事件は中国企業にとってのひとつのシグナルである。アフリカの鉱物資源が豊富な地域はほとんどが内陸にあり、政治的には民族対立が集中している地域であり、中国企業の投資の安全をいかに確保するかは今後の重要な課題である。

将来における中ア経済貿易協力はチャンスと課題とが並存しているが、チャンスのほうが課題よりも大きいといえる。中国政府はすでに引き続き中ア経済貿易協力を推進するために一連の政策措置を講じており、将来さらに多くの奨励政策を打ち出すことが見込まれる。こうした政策措置は、中ア経済貿易協力の発展に積極的かつ重要な役割を果たすであろう。また、中国とアフリカ大陸の経済は比較的速い成長を維持し、市場規模は絶えず拡大し、双方の協力分野や協力の範囲も広がり、協力のレベルと相互理解が日増しに深まるであろう。したがって、中国とアフリカ諸国の経済貿易協力は、さらなる発展を遂げることが見込まれる。

<参考資料>

中ア経済貿易関係：[http://www. catps. com](http://www.catps.com)

張宏明「中国の対アフリカ経済政策についての回顧と再考（中国対非経済政策的回顧与思考）」『海外投資と輸出貸付（海外投資与出口信貸）』2006年第3期所収。

魏浩・張二震「発展途上国と中国の経済摩擦およびその影響の分析（発展中国家与中国的經濟摩擦及其影響分析）」『世界経済研究（世界經濟研究）』2005年第10期所収。

方凱「アフリカと中国の貿易摩擦の現状分析（非洲与我產生貿易摩擦的現状分析）」駐エジ

プト大使館経商参処。

宋志勇「アフリカと中国の貿易摩擦の現状分析（非洲与我產生貿易摩擦的現状分析）」雑誌『西アジア・アフリカ（西亜非洲）』所収。

唐宇「中国が直面する貿易摩擦の根源についての検討と分析（中国面臨貿易摩擦之根源探析）」『中国社会科学院大学院学報（中国社会科学院研究生院学報）』2004 年第 5 期所収。

『中国商務年鑑』（2001 年－2007 年）商務出版社。